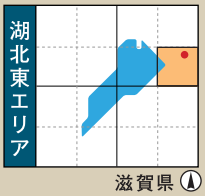
天然記念物
国指定

了徳寺（りょうとくじ）のオハツキイチョウ

米原町醒ヶ井　昭和4年12月17日指定



葉上結実イチョウは「花も咲かず葉から実がなる不思議なお葉附きいちょう」として古くから知られていました。県内では、守山市東門院、大津市盛安寺のものなど数本のオハツキイチョウが知られています。オハツキイチョウは、その奇態ばかりでなく、植物の進化の過程を知る上で重要な樹木として保護されています。

了徳寺のオハツキイチョウ

中山道醒ヶ井宿にある了徳寺境内に立つ、雌株のイチョウです。オハツキイチョウは銀杏の葉に現れる奇形の一種で、葉の縁に多いものは5個、普通は1～2個の楕円形の種子を付けます。これは、本来種子となる胚珠の基部にある盃状部と呼ばれるところが葉状化し、葉の縁に種子が生じたように見える、先祖帰りの奇形です。花が、葉から変化したものであることを裏付けるもので、植物の進化の過程を知る上で重要です。

了徳寺のオハツキイチョウは小枝が垂下する樹形上の特徴があり、推定樹齢150年程度、樹幹約4.1mになり、樹勢は旺盛で今なお成長を続けています。



黄葉のオハツキイチョウ



了徳寺門前

中山道醒ヶ井宿（さめがいしゅく）

了徳寺のオハツキイチョウの立つ醒ヶ井は、近世中山道の宿場町として栄えました。天保14年（1843）の『宿村大概帳』によれば、宿場は8町2間、人口539人、家数138軒、本陣、脇本陣各9軒、旅籠屋11軒、人馬継問屋7軒であったといいます。

宿場内の至る所から清冽な清水が湧き出し、「醒ヶ井」の名称のもととなりました。湧き出た清水は地蔵川の清流となって街道沿いに流れます。この川には、清流にしか生育できないバイカモが繁茂し、これも清流の魚ハリヨが、独特の巣を作っています。

醒ヶ井宿は今も残る宿場の歴史的な環境と、清水が造り出す自然環境が融合した美しい景観を残し、秋には、オハツキイチョウの黄葉が光り輝く添景となっています。



オハツキイチョウの樹形



清水の一つ「十王水」



宿場の屋根越しに見えるオハツキイチョウ

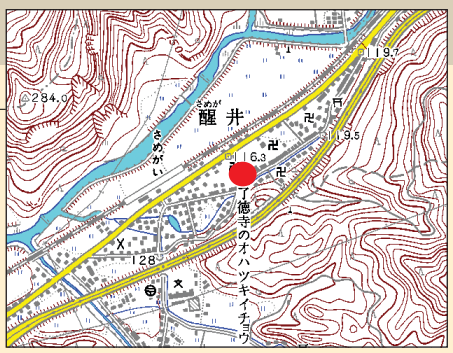
関連する文化財

早田のオハツキイチョウ（山形県温海町）	葉の中筋、および第2主側脈上に花と種子をつける。オハツキイチョウの中で最も変化に富む形状を示す
杉森神社のオハツキイチョウ（福井県高浜町）	杉森神社境内に立つ2株のオハツキイチョウ。葉の変異は全体の3割程度。葉面が小さいのが特徴
上沢寺のオハツキイチョウ（山梨県身延町）	逆銀杏、毒消し銀杏とも呼ばれた木で、葉の変異は3割程度。オハツキイチョウの存在が、学会に報告された初めての例
八木沢のオハツキイチョウ（山梨県身延町）	オハツキイチョウの雄木で、葉上に葯（やく）をつける。オハツキイチョウの雄木で指定されているのはこの木だけである

もっと深く知りたい

米原町教育委員会　☎0749-52-6632　坂田郡米原町下多良3-3

了徳寺のオハツキイチョウへのアクセス　JR東海道本線　醒ヶ井駅下車
北陸自動車道　米原インター



【参考文献】〔日本の天然記念物〕講談社 〔滋賀縣天然記念物調査報告〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月